

## 植民地朝鮮における児童保護史研究

田中，友佳子

<https://doi.org/10.15017/1654622>

---

出版情報：九州大学，2015，博士（教育学），課程博士

バージョン：

権利関係：Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (3)

氏 名	田中 入江 友佳子		
論 文 名	植民地朝鮮における児童保護史研究		
論文調査委員	主 査	九州大学 教授	野々村淑子
	副 査	九州大学 教授	新谷 恭明
	副 査	九州大学 教授	元兼 正浩
	副 査	九州大学 准教授	飯嶋 秀治

## 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、植民地朝鮮の産育に関する知、認識体系や行動様式が「植民地近代」としての統治空間において徐々に変容し機能せしめられていく様相を明らかにすべく、1910年代から1930年代に行われた児童保護に関する啓蒙活動、それを支えた調査研究活動、さらに組織や施設の設置や運営等の具体に着目した。欧米のミッション、日本の総督府は、いずれも帝国主義の文化戦略において、朝鮮社会の母子衛生や産育知識の啓蒙、不良児、孤児保護や矯正など、人々の「生（生命・生活）」の営みに、医学、心理学、統計学等の西洋近代科学の知見により着手し推進した。伝道婦人や牧師等の朝鮮人と内地人との媒介者、健康優良児審査会や展覧会、ラジオ放送などの媒体などの中間者が介在しつつ、それらの知が朝鮮社会に浸透し定着していく経緯を詳細に解明した本研究の成果は、植民地朝鮮の人々の出産・育児に関わる生のかたちが近代化されていく政治的、文化的基盤と、その複層性を解明した点において、従前の植民地朝鮮の児童保護史研究、教育史研究、および子ども史研究への独創的かつ有意義な貢献を果たしたものといえる。

よって、本論文は博士（教育学）の学位に値するものと認める。